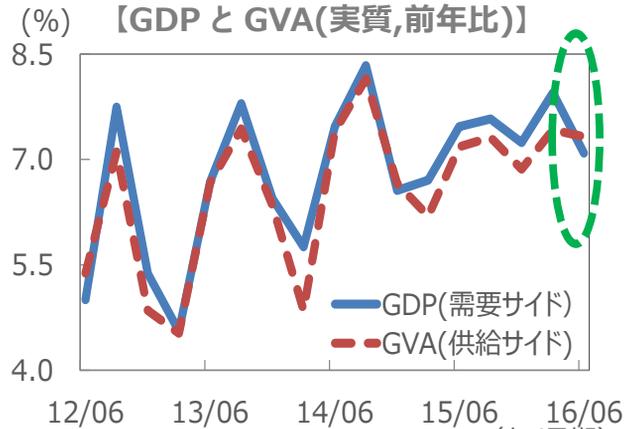


今日のトピック 最近の指標から見るインド経済（2016年8月）

消費拡大により、年後半景気は上向きへ

ポイント1 GDP成長率は減速 年後半景気は上向きへ

■ 2016年4-6月期の実質GDP成長率は、前年比+7.1%と減速しました（2016年1-3月期：同+7.9%）。一方、インド準備銀行（中央銀行、RBI）が成長率予測に使う実質GVAは、前四半期の同+7.4%とほぼ同じ同+7.3%でした。両者が乖離した主因は、食料補助金の執行ペースが加速したことにより、政府の財政規律維持重視から一時的なものと考えます。



(注) データ期間は、2012年6月から2016年6月。(年/月期)

GDP = GVA + (間接税 - 補助金)。

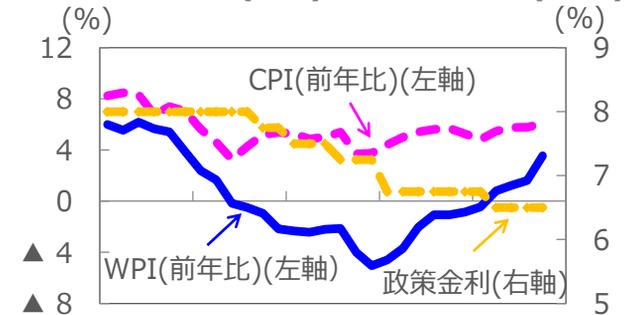
(出所) CEICのデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ポイント2 物価は足元連続で上昇 引き続き食品価格の上昇が寄与

■ 16年7月の消費者物価指数は前年同月比+6.1%と上昇しRBIの目標レンジ（+2%～+6%）の上限を超えました。主に食品（特に野菜）の上昇が寄与しました。今年6月までの干ばつが主因と思われます。

■ 今年のモンスーン期（6-9月）は、農産物生産にとって最も重要な7月に十分な雨が降り、順調に推移しています。既に物価上昇の主因と見られる野菜価格の伸び鈍化もあり、食品インフレ鎮静化の動きが見られます。

【消費者物価指数(CPI)と卸売物価指数(WPI)】



(注) データ期間は、2014年3月から2016年7月。

(出所) Bloomberg L.P.、インド準備銀行 (RBI) のデータを基に

三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 景気は消費拡大が牽引

■ 順調なモンスーンの降雨による農産物生産増加や、8月以降の公務員賃金の引き上げを反映し、堅調な消費を中心として年後半にかけて経済は勢いを増すと見られます。

■ また、RBIは、今後のインフレ低下を受けて利下げを行う可能性があります。消費の拡大による景気的好調に加え、インフレ低下による利下げも予想されることから、年後半にかけてインドの株式、債券、為替の堅調さが期待されます。

ここもチェック! 2016年 8月17日 「モンスーン」、引き続き降雨は順調（インド）
2016年 8月10日 インドの金融政策（2016年8月）

■ 当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■ 当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■ 当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■ 当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■ 当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■ 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■ 当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。